

四旬節第5主日
エレミヤ 31・31-34
ヘブライ 5・7-9
ヨハネ 12・20-33

2015.3.22 9:30 ミサ
サン・スルピス司祭会 白浜 満神父

「一粒の麦は地に落ちて死ななければ多くの実を結ぶことができない」。——イエス・キリストが、これから受けようとしている死の意味を表している、みことばだと思います。このみことばの意味を少し黙想してみたいと思います。

皆さんは、1985年の夏、群馬県の山中にジャンボジェット機が墜落した事故を覚えていらっしゃるでしょうか。もうだいぶ前のことになりますので、記憶にない方もおられることでしょう。墜落の15分前に、パイロットは、乗客の方々に事情を説明し、お詫びを申し上げたようです。その後の短い間に、家族や友人に宛ててメッセージを残した方々のメモが見つっています。一人の青年のメモを、わたしもある本で見つけることができましたので、紹介したいと思います。

「先程、ぼくたちは15分後に死ななければならないという報告を受けた。皆、静かです。これは珍しいことです。ぼくも静かに、生きてきた人生を振り返っている。その人生がもう終わったことは残念です。まだ多くのことを経験させてもらおうと思っていたから。今は、ぼくの生涯の中の苦労と悩みは一切感じられなくなったみたい。ただ、たくさんの良いものばかりが浮かんでくる。良くできたこと、良い人との出会い、美しい風景、両親の親切さ、母の微笑み。ぼくは、いただいた無数のもののために感謝しなければならない。ぼくは心の感謝でいっぱいです。ありがとう」。

間もなく飛行機が墜落して死を迎えなければならないという状況の中で、この青年は、最後に「ありがとう」という言葉を残すことができました。わたしは、この青年が「ぼくは、いただいた無数のもののために感謝しなければならない」という感謝の心をもって、生涯の終わりの時を迎えることができたことに、本当に驚きを感じます。この青年の生涯の終わりの時に、走馬灯のごとく頭をよぎったのは、たくさんの人からいただいた無数の愛でした。

もう一つ、ある母子家庭でのエピソードを紹介したいと思います。一人のお母さんは、事情があって離婚をし、小学校5年生の男の子を育てていました。「太郎」という名前を使わせていただきます。毎月小遣いは与えていましたが、他の子供たちと比べると、その額はとても少なかったようです。太郎君は何か買いたい物があつたらしく、自分がもらっている月ごとの小遣いを貯めても、なかなかその額にたどり着けないために、ある作戦を練りました。そして、先に行動を起こして、お母さんに手紙を書きました。お母さんに書いた手紙の内容は、次のようなものでした。

「お母さんへ。3月1日、夕食後に皿洗いの手伝いをしました。300円。3月5日、お風呂の掃除をしました。300円。3月10日、一緒に買い物に行って重たい物を運びました。400円。合計1000円、お母さんに請求します。」

この手紙を見て、お母さんは少し心が痛くなりました。「小遣いの額が少ないからだろう」と思いましたが、お母さんは太郎君のことを思って、太郎君が学校に行っている間に返事を書いて、机の上に置きました。そして、学校から帰って来た太郎君は、お母さんの手紙を読みました。お母さんの手紙の内容は、次のようなものでした。

「太郎へ。お母さんは太郎のために毎日ご飯を作って食べさせました。無料。太郎の汚れた服を毎日洗ってあげました。無料。太郎が熱を出して風邪をひいたときに、夜通し看病してあげました。無料。合計無料」。

わたしたちはしばしば、物事を「交換」という形で考えてしまうことがあります。自分がした「よいこと」のために、見返りをもらうというのが交換です。イスラエルの民は、旧約時代の「契約」を「交換」のように理解していたかもしれませぬ。—「神は、自分たちを約束の地に導く条件として、律法、とくにその中心となる十戒を守ってほしい、と命じておられる」。そこには「交換」のようなものが感じられますが、イスラエルの民に対する神の愛は無償です。

今日の第一朗読の中で、エレミヤはこの「旧約」をもとにして、新しい契約が結ばれるということを預言していました。この新しい契約（新約）は、イスラエルの民だけではなく、イエス・キリストを信じるすべての人々に及んでいく、民族の境界を超えたものです。また、第二朗読の中で、この新しい契約は、イエス・キリストによってどのようにして実現されていくのかが説明されました。—「キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従

順を学ばれました。そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となりました」。

御父は無償の愛に駆られて、人類のために御子をこの世にお遣わしになりました。この御父の無償の愛を身に受けて、御子イエス・キリストも十字架上でいのちをささげ尽くされ、わたしたちの救いの源となってくださいました。今日の福音で、イエスが言われていた「人の子が栄光を受ける時が来た」というときの「栄光」は、わたしたちが考えている「栄光」とは違っていています。イエスがすべての人の救いのために自分自身を犠牲にして、無償の神の愛が多くの人々に及んでいくこと、それがイエスの考えていた「栄光」です。神の栄光とは、無償の神の愛の広がりのことです。

いよいよ来週、わたしたちは聖週間を迎えて、イエスの死と復活を黙想していくこととなります。そのためにわたしたちは、神の無償の愛、またそれに突き動かされる多くの人々の愛に支えられていることを、改めて心に留めたいと思います。聖週間中、わたしたちは、全人類を救済するために一粒の麦とされたイエス・キリストの無償の愛、さらに御子キリストをお遣わしになった御父の無償の愛に、心からの感謝をささげたいと思います。神の無償の愛、ここに、わたしたちの人生の希望と光があります。どんなに苦しい状況の中で死を迎えようとも、感謝の心をもって自分自身を神に委ねることができればと思います。ジャンボジェット機が墜落して亡くなった一人の青年のように、たとえ短い生涯であっても、不遇な生涯であったとしても、「ありがとう」という言葉で、自分の死を迎えることができればと思います。

無償の愛でわたしたちを支え、包み、愛しておられる御父が、本当に存在しておられます。この御父が、御子キリストを無償の愛で、わたしたちのために遣わされました。そして、御子キリストは無償の愛で、わたしたちの救いのために、ご自身を死に渡されました。これからミサが続けられていきます。このミサの中で、神の無償の愛で、わたしたちの心が温められますように。ミサ後に行われる今日の黙想会は、「ミサの中でイエスを体験する」というテーマでお願いされています。とくに「主は皆さんとともに」という言葉をキーワードにしながら、どれほどの神の無償の愛で、わたしたちが生かされているのかということ、ミサと関連付けて黙想して行きたいと思っています。